

National Institute of Technology (KOSEN), Numazu College

Outline 2026



沼津高専概要
www.numazu-ct.ac.jp



●教育理念

「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」

●教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成

●教育方針

- 1 カレッジライフを通じて、人間性と専門性を涵養する。
- 2 グローバルな視点を持ち、国内外で活躍できる能力を培う。
- 3 実験・実習及び探求学習を重視した教育により、実践力、問題解決能力を養い、自主性、協調性を育てる。
- 4 教員の研究活動を通じて創造性を育む。

●学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- 1 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 2 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 3 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 4 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 5 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

●養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

校長あいさつ

校長 山田 光太郎



高等専門学校(高専)は、中学校の卒業生を5年間の一貫教育で「時代の要請に応える実践的技術者」に育てる「高等教育機関」です。沼津工業高等専門学校(沼津高専)はその60年を超える歴史の中で1万人を超える卒業生を世に送り出し、卒業生は国内外で優れた技術者や科学者として活躍し、産業界や社会から高い評価を受けており、その期待はさらに高まっています。

高専生は、高校生と違い「学生」と呼ばれます。これには大学生と同様に自ら学ぶ者という意味が込められています。若い時期から大人としての責任を求められる、ということでもあります。実際、この呼称に値するような学生が多いように見受けられます。

高専の学生は、本科1年生から専門的な内容を高密度なカリキュラムで広く学び、本科を修めた時点で高いレベルの技術者として巣立ちます。それだけではなく、専門と関係の深い数学や理科のみならず、外国語・国語・社会など一般的な分野も学び、さまざまな背景をもつ人々との協働によりイノベーションを起こすことができる人となるための素養をつけていきます。さらに専攻科では本科卒業後の2年間でさらに高度な専門教育を行い、所定の要件を満たした修了生には大学改革支援・学位授与機構から「学士(工学)」の学位が授与されます。

本科卒業生の約半数は企業等に就職し、その多くは研究・開発に携わっています。残りの半分のうち一部は専攻科に進学したり大学に編入して、自分の知識・技術をさらに磨いていきます。専攻科や大学を卒業した後にさらに大学院に進学して研究者や高度技術者を目指す人もいます。その中には、本科在学時の専門から分野を変えて新たな道を歩むものもいます。社会に出るまでにさまざまなキャリアパスがあるというのも高専の特徴です。

高専教育は授業だけでは完結しません。たとえば、国内外の多くの大学・研究所と交流協定を締結し、インターンシップや共同研究を通じて視野を広げる機会を提供しています。高専と言えば、ロボコンが有名ですが、その他にもディープラーニングコンテスト、デザインコンペティション、プログラムコンテスト、英語プレゼンテーションコンテスト等にも学生が参加し、実践の体験をしています。また、コンテストを通じた起業家教育を進めています。これらの取り組みを通じて、学生の可能性を引き出すことができると考えます。

静岡県は、製造品出荷額が全国トップクラスです。沼津高専のある静岡県東部には、大手企業の生産拠点や研究所、多様な中小製造業の本拠地が置かれています。それらの企業や地元自治体からは種々のご支援、ご協力をいただいています。それに対し、本校は、教育や人材育成、共同研究を通じて地域社会や産業に貢献しています。静岡県が推進するファルマバレー計画の中で、医用機器開発に係る中核技術者を養成する社会人講座「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(通称F-met)」を主催し、医薬品・医用機器産業が盛んな静岡県東部地域の振興に積極的な役割を果たしている、というのもその一つです。これらの地域貢献を継続し、さらに発展させて行きたいと考えています。

沼津高専は、「科学技術立国」たる日本の工業の中核を担う人材を輩出し続けながら、静岡県東部における「科学と技術の知の拠点」としての役割を果たしてまいります。今後ともよろしくご支援をお願い申し上げます。

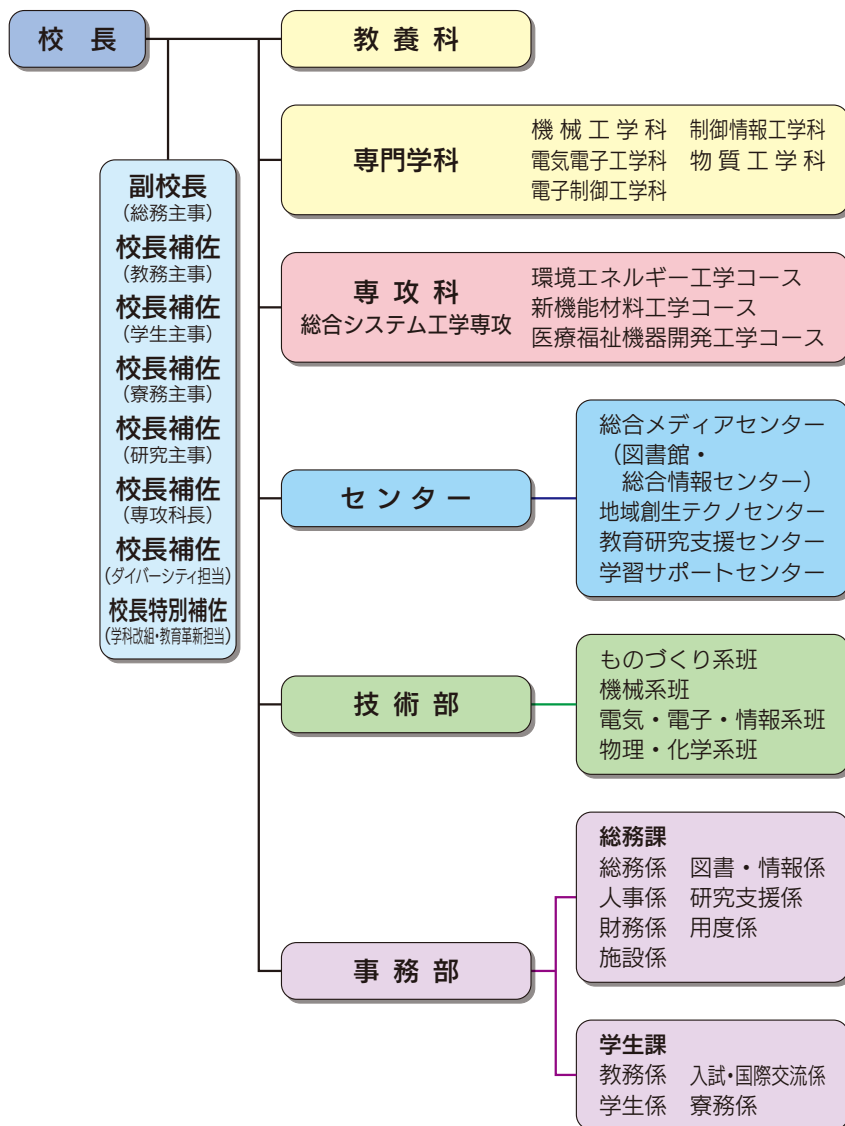
概要 Outline



- 所在地 静岡県沼津市大岡3600
- 設置 昭和37年3月29日
- 本科 修業年限 5年
 - ・機械工学科
 - ・電気電子工学科
 - ・電子制御工学科
 - ・制御情報工学科
 - ・物質工学科
- 専攻科 修業年限 2年
 - ・総合システム工学専攻
 - ・環境エネルギー工学コース
 - ・新機能材料工学コース
 - ・医療福祉機器開発工学コース
- 学生定員 1,048名
- 施設
 - ・敷地 89,599㎡
 - ・建物 35,393㎡

令和8年5月1日現在

●組織図



●役職員

■役職	■氏名
校長	山田光太郎
副校長 (総務主事)	稲津 晃司
校長補佐 (教務主事)	芹澤 弘秀
校長補佐 (学生主事)	芳賀多美子
校長補佐 (寮務主事)	駒 佳明
校長補佐 (研究主事)	鈴木 静男
校長補佐 (専攻科長)	竹口 昌之
校長補佐 (ダイバーシティ担当)	芳賀多美子
校長特別補佐 (学科改組・教育革新担当)	青木 悠祐
機械工学科長	永禮 哲生
電気電子工学科長	小村 元憲
電子制御工学科長	大庭 勝久
制御情報工学科長	大久保進也
物質工学科長	古川 一実
教養科長	鈴木 正樹
総合メディアセンター長	鈴木 康人
地域創生テクノセンター長	鈴木 静男
教育研究支援センター長*	西村 賢治
事務部長	塚本 剛生
総務課長	持田 茂伸
学生課長	前田 剛

*技術部長及び起業家工房クリエイティブ・アトリエ運営室長を兼務
令和8年4月1日現在

●現員

■区分	■現員
●教育職員	70
校長	1
教授	30
准教授	29
講師	0
助教	10
●技術系職員 (技術部)	12
●事務系職員	34
合計	116

令和8年4月1日現在

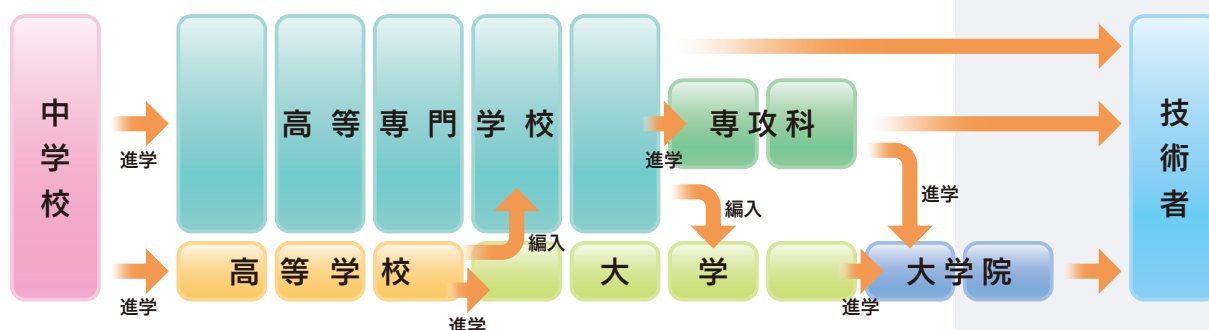
●高等専門学校とは

高等専門学校（高専）は、社会が必要とする技術者を養成するため、中学校の卒業生を受け入れ、5年間一貫の技術者教育を行う高等教育機関です。高専は、我が国の産業の発展と工学教育の振興を図るために創設されました。

実験・実習を重視する専門教育を早期から行うことで、20歳での卒業時には大学学部卒に相当する工学の知識と技術が身につく教育課程を編成しています。

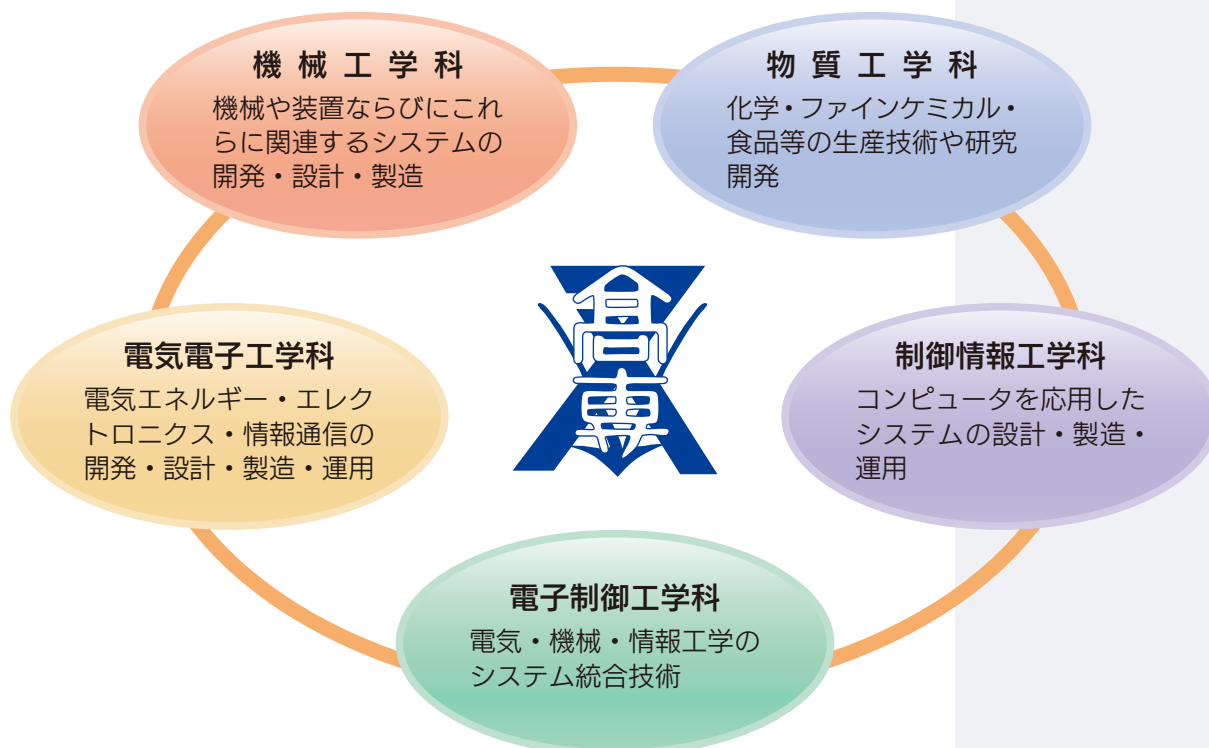
また、5年間の本科課程を卒業した者を、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者に養成する、融合・複合工学領域の学修ができる専攻科を設置しています。

沼津高専は開校以来およそ60年にわたって、優秀な技術者を輩出し、ものづくり立国日本に貢献しています。



●学科構成

沼津高専には5つの専門学科があり、学生はいずれかの学科に所属し、自らの専門を深めていきます。



三つのポリシー

Educational Policies

沼津高専の本科・専攻科では、以下に掲げる三つのポリシーに従って、教育活動を実践する。
このポリシーを基にして、教育の改革・改善に向けた検討を進める。
ディプロマ・ポリシーは、卒業・修了認定の方針である。
カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成・実施の方針である。
アドミッション・ポリシーは、入学者の受入れの方針である。

本 科

●ディプロマ・ポリシー

本校では、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者を育成することを目的としている。そのため、学則で定める修業年限以上在籍し、全課程を修了して以下の能力を身につけ、167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得した学生の卒業を認定する。

- A 【倫理力】工学倫理に基づいて、社会問題に対する技術者の社会的責任を説明できる能力
- B 【基礎学力】数学、自然科学、情報科学・技術の知識を社会の要請に応じて活用する能力
- C 【専門力】工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力
- D 【コミュニケーション力】多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力
- E 【実践力】実践的技術者として自身の役割を自覚し、計画的に課題解決学習や実験実習、及び研究活動に取り組む能力

各学科の人材像は以下に示すとおりである。

- 〔機械工学科〕機械や装置ならびにこれらに関連するシステムの開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
- 〔電気電子工学科〕電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
- 〔電子制御工学科〕電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
- 〔制御情報工学科〕コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
- 〔物質工学科〕化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者

●カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム（MCC）に示された学習内容の実施と到達目標の達成が必修科目の修得だけで可能となるように配慮する。また、社会の多様なニーズに応えるために、各学科の特色や強みに関する科目（必修科目及び選択科目）を適切に配置する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、人文・社会科学（社会）に関する科目を配置する。
- B 数学、自然科学及び情報科学・技術の知識を応用できる能力を身につけるため、数学及び自然科学（物理・化学）、情報基礎に関する科目に加え、各専門分野に関する専門基礎科目を配置する。
- C 工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力を身につけるため、各専門分野に関する専門応用科目を配置する。
- D 多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力を身につけるため、人文・社会科学（国語・外国語）に関する科目、及び科学・技術系英語に関する科目を配置する。
- E 実践的技術者として組織・チームの中で自身の役割を自覚し、主体的かつ計画的に行動して課題解決学習や実験・実習・演習及び研究活動に取り組む能力を身につけるため、実技系科目を配置する。

なお、卒業研究はディプロマ・ポリシーに掲げたすべての能力を身につけるための科目として位置づけられている。各学科の育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。

- 〔機械工学科〕機械系分野のMCC準拠科目を含めて、設計・製図、機械工作、機械・材料・熱流体の力学、制御・情報工学などの知識や技術を修得できる科目を配置する。
- 〔電気電子工学科〕電気・電子系分野のMCC準拠科目を含めて、回路設計、電力変換、制御システム、情報通信、デバイスの知識や技術を修得できる科目を配置する。
- 〔電子制御工学科〕電気・電子系分野と情報系分野の複合領域のMCC準拠科目を含めて、ロボット制御、データサイエンス、システム統合の知識や技術を修得できる科目を配置する。

〔制御情報工学科〕情報系分野と電気・電子系分野の複合領域のMCC準拠科目を含めて、理工学基礎、プログラミング、コンピュータサイエンス、情報システムなど、情報工学／情報科学の普遍的な知識や技術を修得できる科目を配置する。

〔物質工学科〕化学・生物系分野のMCC準拠科目を含めて、分析化学、無機化学、物理化学、有機化学、生物化学、化学工学の知識や技術を修得できる科目を配置する。

授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。

科目毎に到達目標、実施方法（授業計画を含む）、評価方法を定め、年度初めに公開する。学習成果の評価（成績評価）は100点法に基づくものとし、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

1. 講義科目においては、主に試験（定期試験、小試験等）の結果や課題レポートなどの平常の取り組み状況に基づいて総合評価を行う。
2. 実験・実習・演習（PBL科目含む）および卒業研究などの実技系科目・実践的科目においては、取り組み状況、成果報告または論文、発表などに基づいて総合評価を行う。

評語で表わす場合は、S（秀）：100～90点、A（優）：89～80点、B（良）：79～70点、C（可）：69～60点、D（不可）：60点未満とする。

●アドミッション・ポリシー

以下の意欲及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により、帰国生徒学力選抜においては、学力検査、調査書、エントリーシート、個人面接により、編入学選抜においては、学力検査、調査書、個人面接により確認し、受け入れる。

1. 他人の意見を尊重し、社会の規範を守る者。
2. 科学・技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。
3. 豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい者。
4. 多様な価値観を受け入れ、自らの考えを表現できる者。
5. 将来、科学者・技術者として地域・社会の発展に貢献する意欲の有る者。

学力の三要素（受け入れる学生に求める学習成果）との対応関係は以下に示すとおりである。

「知識・技能」 1、2

「思考力・判断力・表現力」 1、3、4

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1、3、4、5

専攻科

●ディプロマ・ポリシー

本校では、高等専門学校教育における成果を踏まえ、工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備え、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、地域社会の産業と文化の進展に貢献できる技術者を育成することを目的としている。そのため、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した学生の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力
 - (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
 - (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
 - (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
 - (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。
 - (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
 - (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。

三つのポリシー

Educational Policies

- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
 - (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
 - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
 - (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
 - (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

各コースの人材像は以下に示すとおりである。

[環境エネルギー工学コース]

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を融合複合した環境・エネルギー分野を中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者

[新機能材料工学コース]

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野の基盤となる金属、セラミックス材料、高分子材料、生体材料などを深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者

[医療福祉機器開発工学コース]

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を基盤とし、解剖生理学、医用生体工学など医工学分野を深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者

●カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力
 - (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (A-2) 「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力
 - (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
 - (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ・Ⅱ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
 - (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ・Ⅱ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅱ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
 - (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科学研究Ⅰ・Ⅱ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

各コースの育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。

〔環境エネルギー工学コース〕

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1, A-2, C-1, C-3に対応した能力を修得できる科目を配置する。それ以外の能力を修得できる科目を一般科目、専門共通科目、専門展開科目として配置する。

〔新機能材料工学コース〕

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野の基盤となる金属、セラミックス材料、高分子材料、生体材料の構造や物性、材料設計製法について包括的に学修し、B-1, C-1, C-3に対応した能力を修得できる科目を配置する。それ以外の能力を修得できる科目を一般科目、専門共通科目、専門展開科目として配置する。

〔医療福祉機器開発工学コース〕

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野並びに解剖生理学、医用生体工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2, C-1, C-3に対応した能力を修得できる科目を配置する。それ以外の能力を修得できる科目を一般科目、専門共通科目、専門展開科目として配置する。

教育課程表は以下の方針に従って編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目から編成する。
2. 一般科目として必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）を配置し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目として選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）を配置し、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目として必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）を配置し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。
5. 専門展開科目として必修科目（専攻科学研究Ⅰ・Ⅱ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目を配置し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系科目群、情報・論理系科目群、材料・バイオ系科目群、力学系科目群、および社会・技術系科目群の5科目群に分類される科目を配置し、合計6科目以上、各群から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を配置し、それぞれ1科目以上修得する。

授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。

科目毎に到達目標、実施方法（授業計画を含む）、評価方法を定め、年度初めに公開する。授業科目の成績は、S、A、B、C及びDの5種の評語をもって表し、S、A、B及びCを合格とする。評語と評価点の相互換算は、S（秀）：90点以上、A（優）：80点以上90点未満、B（良）：70点以上80点未満、C（可）：60点以上70点未満、D（不可）：60点未満とする。

1. 成績は、当該学期の試験の成績及び平素の成績並びに出席状況等を総合して決定するものとする。
2. 実習の成績評価は、沼津工業高等専門学校専攻科学外実習規則によるものとする。

●アドミッション・ポリシー

以下の意欲、学力及び経験を有する者を、推薦選抜においては、個人面接、自己申告書、成績証明書により、学力選抜においては、学力検査、個人面接、自己申告書、成績証明書、TOEICスコアにより確認し、受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。

学力の三要素（受け入れる学生に求める学習成果）との対応関係は以下に示すとおりである。

「知識・技能」 1、2、3

「思考力・判断力・表現力」 1、2

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1、3

特色ある技術者教育

Features of Engineering Education

教育課程の特徴

沼津高専の教育課程は、一般科目と専門科目がバランスよく配置されているため、卒業時に大学学部卒と同程度の知識と技術が身につくものになっています。



● 実験・実習を重視した専門教育

第1学年では、技術者に共通に必要な有効数学、計測誤差、安全教育および全学科の基礎実験を「工学基礎Ⅰ」、「工学基礎Ⅱ」で必修として学ぶなど、低学年から実験・実習を重視した専門教育を実施しています。

● 課題解決型の実践的教育

学生が主体的に学び、課題に対する解決方法を提案するなどの創造性を育成する教育として、第4学年の「社会と工学」で、おおよそ5名でのグループワークを中心とした学修を行います。学生自らが地域の課題をテーマとして設定し、工学的観点からの考察と解決案の提案を行います。

これ以外に、各学科のカリキュラムに課題解決型の科目が配置されています。

● インターンシップ

主に第4学年において約半数の学生が企業等で1～2週間の就労体験を行います。高専での学修内容の実社会とのかわりを知ったり、先輩たちの頼もしい姿を見たりして、学生たちの学習意欲が向上します。受け入れ企業等の数は年々増加しており、ここでも本校学生が高く評価されています。

● 卒業研究

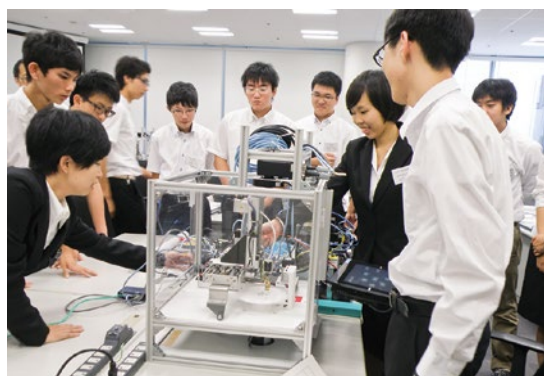
5年間の学修のまとめとして第5学年で「卒業研究」を実施します。各教員の指導下で具体的なテーマについて研究を行い、発表するとともに論文としてまとめます。卒業研究を通じて、問題への取り組み方、自立的で継続的な問題解決の方法と態度の修得とともに、工学と技術の社会での役割について理解を深めます。



1年 工学基礎Ⅱ



4年「社会と工学」成果発表会



企業でのインターンシップ

卒業研究テーマの例

- 生体信号による運転者の動作解析
- 磁気ディスクにおけるスキルミオンの相転移
- 橋梁調査・点検ロボットシステムの構築
- 近接場ミューラー顕微鏡の開発
- バイオマスを用いた持続可能なエネルギー変換プロセスの開発

学 習 サ ポ ー ト

高専での学修は中学校までのものと比べて専門的で高度な内容も含むため、勉強のペースをつかむために苦心している学生もいます。このような学生の勉強の悩みや授業で分からないことを解決する場として「学習サポートセンター」があります。

学習サポートセンターの活動は、総合メディアセンターの開放的な「NAGASE Café (Fuji Cafe)」で行われています。NAGASE Café (Fuji Cafe) には自由に入出入りして自習スペースとして利用できます。学生同士で議論したり、教え合ったりしています。センター担当教員スタッフに分からないところを気軽に質問したり、勉強の悩みを相談したりできます。また、礎塾の活動として、ミニ講座や勉強会を行ったりしています。



NAGASE Café (Fuji Cafe) 入口



NAGASE Café (Fuji Cafe) での学習風景

外部機関による評価

● 機関別認証評価

大学及び高等専門学校は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による機関別認証評価を7年以内ごとに受けることが学校教育法により義務付けられています。

国立高等専門学校機構は、文部科学大臣の認証を受けている評価機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を受審することとしており、本校は、令和7年度に第4回目の機関別認証評価を受審し、「沼津工業高等専門学校は、高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学改革支援・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている」と評価されています。



● JABEE

JABEEとは Japan Accreditation Board for Engineering Educationの頭文字をとったものであり、日本技術者教育認定機構のことです。

同機構は技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体で、大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかについて公平に評価し、認定する事業を行っています。

本校では、本科4年生から専攻科2年生までの4年間について、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」を構成しており、平成16年から日本技術者教育認定機構 (JABEE) の認定を受けています。

本校の技術者教育が4年制大学の教育レベルと同等であることが保証されるとともに、プログラム修了生は、国際的に通用する基本的な学力・技術力を有する者として、社会で受け入れられることになります。具体的には修習技術者と称することができ、技術者としての重要な国家資格である技術士の第一次試験が免除されます。

※専攻科総合システム工学専攻のJABEE認定は、令和9年3月修了生までを対象としています。



沼津工業高等専門学校 専攻科
総合システム工学プログラム



●機械工学科の概要

機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力をもった“機械技術者”を養成することを目標としています。

第2～3学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を学び、また第2～5学年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得します。機械技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした専門科目は、低学年での工学基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機械工学実験による実技と経験を通じて、その内容を深く理解できるものとしてあります。

また、情報処理技術・コンピュータ技術についても、専門科目と連携させて学びます。第5学年で行われる卒業研究では、知識や技術の活用だけでなく、さまざまな工学問題を解決するために必要となる総合的な能力を養っています。



5年 卒業研究（生体信号による運転者の動作解析）



1年 機械工学基礎（ものづくり基礎）

●主な授業科目

材料力学、熱力学、水力学、金属材料学、機械工作法、機構学、制御工学、機械設計法、機械設計製図、機械工学実験、機械工作実習、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	氏名	■専門分野
教 授	博士(工学)	三谷 祐一朗	制御工学・生産システム
教 授	博士(工学)	新富 雅仁	燃烧工学
教 授	修士(工学)	永禮 哲生	切削工学
准教授	博士(工学)	鈴木 尚人	医用生体工学・福祉工学
准教授	修士(工学)	山中 仁	設計工学・機構学 技術士(機械部門)
准教授	博士(工学)	金 顯凡	材料力学
准教授	博士(工学)	横井 敦史	無機材料・セラミック材料
准教授	博士(工学)	前田 篤志	流体工学
助 教	博士(工学)	内野 大悟	メカトロニクス・自動車工学・人間工学



2年 機械工作実習Ⅰ（PLCを用いた制御演習）



3年 プログラム演習Ⅱ（シミュレーションプログラムの作成）

●電気電子工学科の概要

地球環境に配慮したクリーンエネルギーの確保やCO₂を削減するための新技術、クラウドコンピューティングによる情報ネットワーク社会の構築には、電気電子工学の知識と技術が必須です。本学科では、幅広い産業分野において電気電子工学の知識と技能を活かした、問題解決能力を持つ、優れた技術者の養成に努めています。特に、近年の高度化した技術に対応できるように、時代に即した授業カリキュラムを構築し、講義による理論の修得と実験による技能の体得が円滑に行われるように配慮しています。

電気電子工学の根幹をなす、回路理論や電磁気学などの基礎科目は、低学年から学年に応じた内容でステップアップすることにより、理論と応用力を修得する構成となっています。高学年では先端技術に関するテーマを開講し、技術者としての素養を涵養できるよう工夫しています。そのうえ高電圧関連の実験設備も充実させ、電気主任技術者（電験）認定を受けているため、所定の課程を修めて卒業すると、実務経験を経て第二種電気主任技術者資格が取得できます。

そして本学科では今、上級生が下級生に学習の仕方を伝え、学びをつないでいく、E科スタディプロジェクトを行っています。教わる側には学習の底上げを、伝える側には理解の定着だけでなく、社会人となる上で、人と接し、相手の意図を汲み、的確に伝えられることを目指して活動しています。



学びの伝承 E科スタディプロジェクト



5年 卒業研究（クリーンブース）

●主な授業科目

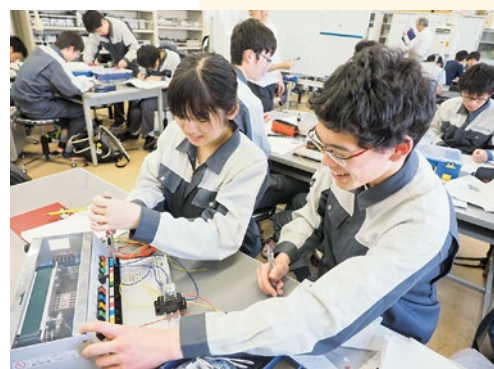
回路理論、電磁気学、パワーエレクトロニクス、電力工学、制御工学、コンピュータ工学、通信工学、電子回路、固体電子工学、電気電子機器、プログラミング、電気電子工学実験、エネルギー変換工学、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	博士(工学)	野毛 悟	超音波エレクトロニクス・電子材料
教 授	博士(工学)	西村 賢治	プラズマ工学
教 授	博士(工学)	小村 元憲	ナノ材料工学
教 授	博士(工学)	高矢 昌紀	色彩画像工学
准教授	博士(工学)	嶋 直樹	電波物理
准教授	博士(工学)	大澤 友克	固体物理学
准教授	博士(工学)	山之内 亘	モーションコントロール
准教授	博士(理学)	高橋 祐太	数理工学
助 教	博士(工学)	保科 友哉	制御工学



4年 PBL型実験（IoTに関する実験）



2年 工学実験（シーケンス制御）



●電子制御工学科の概要

私たちの日常は、さまざまな電子制御技術によって支えられています。例えば自動車、携帯電話、医療機器、これらの用途は全く異なりますが「コンピュータを用いてハードウェアを制御する」という点で共通しています。

電子制御工学科は、多様な分野に活用できる専門知識と統合技術を備えたエンジニアの養成を目的としています。本学科では、電気電子工学、制御工学、情報工学、機械工学などの分野について基礎から応用までバランスよく学ぶことができます。また、あらゆる技術の基本となる数学、物理学、英語等の基礎科目の学習指導にも力を注いでいます。

低学年時は、マイコンやレゴを用いた制御演習、各種プログラミング演習、電子回路の設計、工場実習などを通して、ハードウェアの制御に必要な要素技術を身につけます。3～4学年では、社会実装を見すえた自律型移動ロボット開発にチームで取り組み、企画・創造力と要素技術を適切に統合する技術力を育成します。さらに、5学年の卒業研究では、自ら工学的問題を発見し、培った知識と技術を応用してその解決に挑みます。

本学科の卒業生は、電気・電子系、機械系、情報系など幅広い産業分野で活躍しています。約半数が本科卒業時に就職し、約半数は一層深い専門知識を修得するために大学や沼津高専専攻科に進学しています。



4年 電子機械設計製作（最終発表会でのプレゼンテーション）



3年 電子機械基礎実習でのロボット製作

●主な授業科目

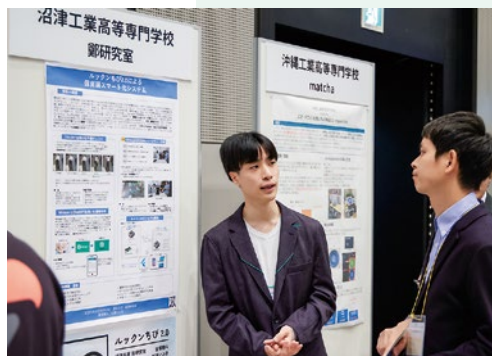
電磁気学、計算機工学、電子機械設計・製作、回路理論、システム制御工学、プログラミング言語、工学数理、工業英語、電気・機械製図、工業力学、電子制御工学実験、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	博士(理学)	牛丸 真司	組み込みシステム・システム制御
教 授	博士(工学)	鄭 萬溶	振動工学・信号処理・AI
教 授	博士(工学)	大庭 勝久	流体工学
教 授	博士(地球環境科学)	鈴木 静男	環境情報工学・生態工学
教 授	博士(医学)	小谷 進	生体信号計測・神経生理学
准教授	修士(工学)	青木 悠祐	ロボット工学・生体医工学
助 教	博士(工学)	香川 真人	ヒューマン・ロボットインタラクション
助 教	博士(理学)	森 正光	超新星爆発・ニュートリノ天文学
嘱託教授	工学修士	川上 誠	画像処理・電子回路
嘱託教授	博士(工学)	遠山 和之	誘電・絶縁材料



5年 卒業研究（医療診断支援システムの開発）



DCONにおけるポスター発表

●制御情報工学科の概要

制御情報工学科は、コンピュータを応用した複合機器やシステムの設計、製造、運用等の分野で社会に貢献できる実践的技術者の養成を目的としています。

カリキュラムは、情報工学とシステム・制御工学を重視し、機械工学及び電気・電子工学の関係分野を含んで体系的に編成されています。1～3学年では、C/C++言語の修得を目的としたプログラミング演習とマイコン制御ロボットの開発を目的としたメカトロニクス演習に多くの時間を充て、コンピュータに関する様々な知識や技術を修得します。4学年の創造設計では、コンピュータを応用した具体的なシステムの開発を学生がグループで取り組み、企画から設計・製作、そして検証・考察・成果発表に至るまでの一連の過程を体験します。

高学年では、計測制御、メカトロニクス、コンピュータシミュレーション等の工学実験を各実験室において少人数で体験します。5年間一貫教育の総括としての卒業研究では、教員の個別指導のもとに、具体的な問題の発見と解決を通して自己学習力と創造力を育成します。本学科の卒業生は、情報通信、自動車、ロボット、家電、医療機器等、幅広い産業分野で活躍しています。



4年 PBL（プロジェクト型学習）形式の創造設計



3年 プログラミング演習

●主な授業科目

計算機アーキテクチャ、オペレーティングシステム、プログラミング、離散数学、電磁気学、数値解析、設計工学、計測工学、自動制御、ロボット工学、コンピュータグラフィックス、人工知能、データベースシステム、生産システム、制御情報工学実験、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	博士(工学)	芹澤 弘秀	電磁波工学
教 授	博士(情報科学)	鈴木 康人	情報論理学
教 授	博士(理学)	牛田 淳	Siフォトンクス・量子エレクトロニクス
教 授	博士(工学)	大久保進也	光情報工学
准教授	博士(学術)	横山 直幸	人工臓器工学
准教授	博士(情報工学)	矢入 聡	音響工学
准教授	博士(工学)	金子 裕哉	通信工学
准教授	博士(工学)	勝俣 安伸	バーチャルリアリティ
嘱託教授	博士(工学)	宮下 真信	脳神経科学
嘱託教授	博士(情報工学)	藤尾三紀夫	デジタルインダストリ



2年 VRゴーグルによる実験



5年 卒業研究（認知情報学）



●物質工学科の概要

ファインケミカルス、セラミックスなどの機能材料の化学および分子生物学、酵素・細胞・遺伝子工学の急速で広範囲な発展に伴い、化学と生物工学について幅広い知識と技術を持った人材が必要になっています。この社会からの要請に応えることが物質工学科の目的の一つです。

物質工学科では、材料科学分野と生物工学分野の専門基礎教育に重点を置き、理論の学習と並行して実験による実践を行います。材料科学分野では、無機材料や有機材料の合成、分析、物性測定、機能評価およびプラント設計などに必要な化学と工学を習得するカリキュラムとなっており、化学関連産業の発展に貢献できる創造的技術者の養成を目指します。生物工学分野では、化学に基礎を置いた生物工学を身につけ、化学工業、医薬品工業、食品工業などの研究開発や生産で活躍できる実践的技術者の養成を目指します。

私たちを取りまく社会はグローバル化やDXがすすみ、社会的課題の解決に向けた分野横断的な連携が求められています。物質工学科では、これらにも対応すべく、社会からの要請に応えるカリキュラムを編成して学生の教育を行います。



5年 卒業研究（植物ゲノム編集のための組織培養）



2年 無機分析化学実験（滴定操作の準備）

●主な授業科目

物質工学入門、分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学、化学工学、分離工学、微生物工学、分子生物学、ゲノム工学、機器分析、品質管理、化学と情報学、科学英語、物質工学実験（無機分析化学、有機化学、物理化学、化学工学、生物工学）、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	博士(薬学)	後藤 孝信	酵素化学・水産化学
教 授	博士(工学)	稲津 晃司	触媒化学・環境化学
教 授	博士(理学)	大川 政志	無機化学
教 授	博士(工学)	竹口 昌之	生物化学工学・微生物工学
教 授	博士(農学)	古川 一実	遺伝子工学・植物育種学
教 授	博士(工学)	藁科 知之	分析化学
准教授	博士(工学)	鈴木 浩司	分析化学・有機化学
准教授	博士(理学)	井内 哲	計算化学
准教授	博士(学術)	山根 説子	生体材料
准教授	博士(工学)	伊藤 拓哉	反応工学・プロセスシステム工学
准教授	博士(工学)	新井 貴司	無機材料



3年 有機化学実験（エステル合成）



4年 化学工学実験（水-エタノール系の蒸留）



●教養科の概要

沼津高専の本科には5つの学科がありますが、いずれの学科の学生も共通に学ぶ科目があります。これらを一般科目といいます。主に一般科目を担当している教員の組織が教養科です。

一般科目には2つの目的があります。ひとつは所属する学科の専門科目を学ぶための基礎学力を身につけること、もうひとつは健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を養うことです。教育内容は、高等学校及び大学の教養課程において学習する範囲の教科の内容を含んでいます。

沼津高専では、高度な専門知識を有する教員によって確かな教養教育を低学年から展開することによって、広範な知識・技術及び的確な判断力・実行力を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた技術者を養成しています。

●主な授業科目

国語、哲学、歴史、地理、数学、物理、化学、保健体育、英語、ドイツ語、美術、音楽

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	体育学修士	佐藤 誠	スポーツ運動学・体操競技
教 授	博士(工学)	小林 美学	無機化学
教 授	修士(文学)	鈴木 久博	コダヤ系アメリカ文学
教 授	博士(理学)	住吉 光介	宇宙物理学・原子核物理学
教 授	修士(文学)	芳賀多美子	近世文学・俳諧
教 授	博士(理学)	駒 佳明	素粒子物理学
教 授	博士(文学)	平田陽一郎	中国史
教 授	博士(理学)	鈴木 正樹	微分方程式論・可積分系
准教授		渡邊志保美	運動生理学・陸上競技
准教授	修士(教育学)	村上 真理	英語教育法
准教授	修士(文学)	萩原康一郎	文芸学・物語論
准教授	修士(藝術)	小田 昇平	美学藝術学・観光社会学
准教授	博士(理学)	黒澤 恵光	代数学
准教授	博士(理学)	設楽 恭平	非線形物理学
准教授	博士(情報科学)	端川 朝典	頂点作用素代数
准教授	博士(数理学)	榎本 翔太	偏微分方程式論
准教授	博士(数理学)	米田 慧司	関数不等式・偏微分方程式論
助 教	修士(教育学・文学)	塔 娜	言語学・英語教育学
助 教	博士(文学)	邵 金琪	日本近現代文学
助 教	修士(文化研究)	谷津亮太郎	文化地理学・歴史地理学
助 教	博士(理学)	松家 拓穂	幾何学の群論
助 教	博士(文学)	長坂 祥悟	近現代フランス哲学・倫理学
嘱託講師		川口 喜弘 (寮監)	



数学の授業



英語の授業

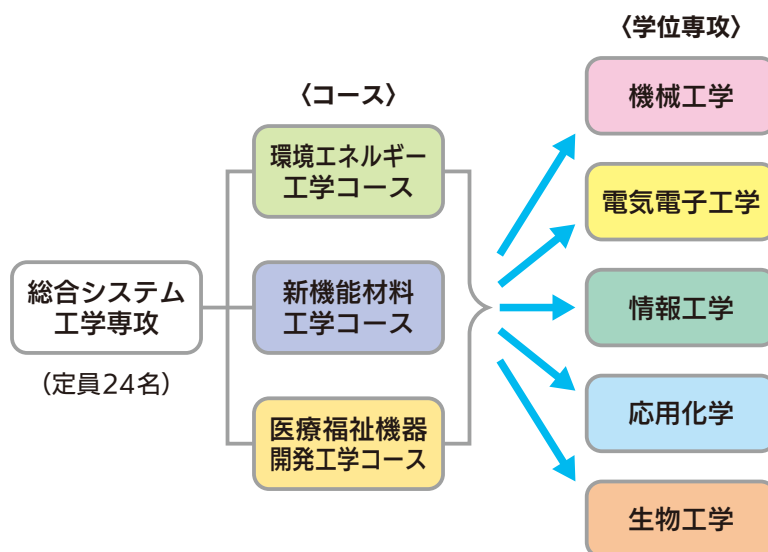


哲学の授業

専攻科 Advanced Course

● 1 専攻 3 コース制

本校専攻科は、1 専攻 3 コースで構成され、修業年限は2年間です。コースには、環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コースがあります。本科で学んだ専門に加えて、融合・複合工学領域の専門を各コースで学修する課程となっており、変化し続ける産業界からの要請に応えられる、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者の育成に向けた教育を行っています。



● 専攻科の特徴

● 特例適用専攻科と学士（工学）の取得など

本専攻科は、大学改革支援・学位授与機構より特例適用専攻科に認定されています。研究指導の認定を受けた30名ほどの教員のもとで専攻科研究を行うことで、学位申請の際には学修総まとめ科目の履修計画書（A4版2頁）と成果の要旨（A4版3頁以内）を提出すれば、従来の学修成果レポート提出と筆記試験が免除され、修了時には原則申請者全員に学位（学士）が授与されます。従って、専攻科の修了時には大学院への入学が可能ですし、就職においても通常は大学卒業と同等の扱いになります。しかし、最近では大学卒業生に含めずに、あえて高専専攻科修了生という求人枠を設ける企業も出てきています。本校の専攻科は高専の第4・5学年の教育課程とともに「総合システム工学プログラム」を構成しています。このプログラムでは、高専第1学年から第3学年で学んだ工学の基礎をもとに、第4・5学年での実験や実習を重視した専門教育、さらに専攻科での研究活動を通して、より深く専門分野を学びます。機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの知識と技術を身につけながら、自分で考えて新しいものを生み出す力や、広い視野と豊かな人間性を備えた技術者を育てることを目指しています。また、地域の企業や関連機関と連携しながら教育や研究を行い、産業と文化の進展に貢献できる人材の育成を目的としています。



専攻科長期学外実習



医療福祉機器開発工学コース 専攻科実験における中間報告会

●学外実習

専攻科では、1年次後期に学外実習（長期インターンシップ）を必修として課しています。実習期間は、10月から翌年1月までの約4か月間です。実習先は、企業の現場から大学等の研究室まで様々で、設計・製造・開発や実験・解析・研究について実践経験を通して学修します。

学外実習では、与えられた課題に対し、チームの一員として粘り強く取り組み、その遂行過程と結果を報告会で分かりやすく報告する能力を身に付けることも重要な目的の一つにしています。事前学習報告書を実習実施前に提出してから実習に臨むとともに、11月の中間報告会と2月の最終報告会で、実習内容について文書と口頭での発表で報告します。

**実習期間
約4か月**
10月から1月まで



地域創生テクノセンター内未来創造ラボラトリー入居企業での学外実習

<スケジュール>

募集

6月

受入機関募集（受入票による申し込み）
学生に順次開示

計画

●7月～8月

実習先決定
指導教員と実習先で打合せ

●9月

学生向け事前研修会（学内実施）
事前学習報告書提出

実施

●10月初旬～1月中旬

実習実施
教員が適宜実習先を訪問

報告

●報告会

11月中旬：中間報告会（学内限定）
2月中旬：最終報告会（一般公開）



最終報告会での発表の様子

専攻科 Advanced Course

●活躍する専攻科生

専攻科研究では、指導教員が一定水準に達した学生に、国内学会や国際会議での研究発表の機会を与え、広く研究成果を発信しています。発表学生が、優秀発表賞などで表彰されることも少なくありません。さらに、学会論文誌への掲載に向けた論文投稿も行っています。

●専攻科生の論文発表、国内学会発表および国際会議発表（令和7年度）

種 別	1 年 生			2 年 生			合 計
	EC	AC	MC	EC	AC	MC	
論 文 発 表	0	0	0	1	1	1	3
国 内 学 会 発 表	2	0	1	3	1	6	13
国 際 会 議 発 表	0	0	0	0	1	1	2

EC：環境エネルギー工学コース、AC：新機能材料工学コース、MC：医療福祉機器開発工学コース

●専攻科担当教員（令和8年度）

* 非常勤講師

青木 悠祐	香川 真人	嶋 直樹	高矢 昌紀	三谷祐一郎	菊池 純一*
新井 貴司	勝俣 安伸	鄭 萬溶	竹口 昌之	宮下 真信	佐竹 哲郎*
伊藤 拓哉	金子 裕哉	新冨 雅仁	遠山 和之	矢入 聡	鈴木江利子*
稲津 晃司	川上 誠	鈴木 静男	長坂 祥悟	谷津遼太郎	永田 靖*
牛丸 真司	金 顯凡	鈴木 尚人	永禮 哲生	山中 仁	藤尾 祐子*
内野 大悟	小谷 進	鈴木 浩司	西村 賢治	山根 説子	芳野 恭士*
大川 政志	後藤 孝信	鈴木 正樹	野毛 悟	山之内 亘	
大久保進也	小林 美学	鈴木 康人	藤尾三紀夫	横井 敦史	
大澤 友克	駒 佳明	住吉 光介	古川 一実	横山 直幸	
大庭 勝久	小村 元憲	芹澤 弘秀	保科 友哉	藁科 知之	
小田 昇平	設楽 恭平	高橋 祐太	前田 篤志	井原洋一郎*	

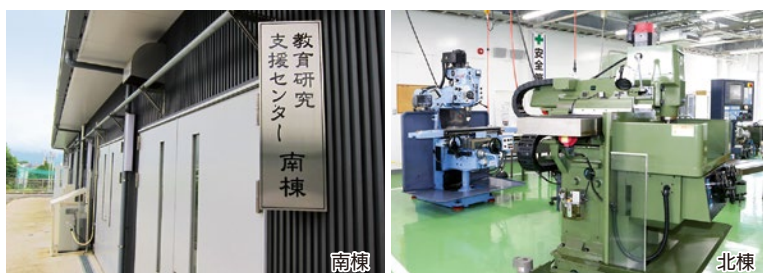
●学外実習での実習先（令和7年度）

種 別	実 習 先
企 業	株式会社ドゥシステム
	株式会社QUICK
	株式会社イージステクノロジーズ
	株式会社堀内電機製作所
	株式会社鈴与総合研究所
	株式会社アイズ・ソフトウェア
	矢崎総業株式会社
	テルモ株式会社
	産業技術総合研究所
大学／大学院	株式会社NIDEK
	粹然株式会社
	IHI運搬機械株式会社
	横浜ゴム株式会社
	株式会社中村機工
	アイング株式会社
	明電システムソリューション株式会社
	Wavelogy株式会社
	株式会社木村鋳造所
大学／大学院	北海道大学
	大阪大学
	静岡大学
	名古屋大学
	東北大学
大学／大学院	筑波大学
	東京科学大学
	豊橋技術科学大学
大学／大学院	関西大学

教育研究支援センターには最新鋭の教育・研究設備が設置され、幅広い産業分野で活躍する実践的・創造的技術者の基本となる、ものづくり教育が行われています。また、教育研究支援センターは、専攻科の医療福祉機器開発工学コースおよび本科の学際教育に関係した教育・研究にも利用されています。センターでは技術部の技術職員が実験・実習教育を支援しています。

センターにおける教育・研究活動は次のとおりです。

- 学生への体験的のものづくり実習教育
- 学際分野、特に医療福祉機器開発分野に関する実験・実習
- 卒業研究、専攻科研究および教員研究の実験装置の製作等
- 地域創生テクノセンターと連携した近隣企業等との共同研究



主要設備

医用機器開発分野

医用機器開発実験室Ⅰ

携帯型エコー装置、人工心肺、筋電図・脳波計、ゼータ電位測定器、エリプソメータ、3Dプリンタ、ベッドサイドモニタ

医用機器開発実験室Ⅱ

胸部誘導心電計、介護ベッド、車いす各種、重心動揺計、モーションキャプチャ、人体模型各種

計測・分析分野

精密計測実験室

レーザーラマン分光装置、走査型電子顕微鏡、高精度CNC三次元測定機、万能投影機、工具顕微鏡

ものづくり教育分野

ものづくり創造工房エリア

レーザー加工機、溶接設備、手仕上げ加工設備、プレス加工機（2台）、プレスブレーキ

鋳鍛造エリア

鋳造設備、鍛造設備

工作機械室

マシニングセンタ、CNC旋盤、ワイヤ放電加工機、旋盤（11台）、フライス盤（4台）、平面研削盤、円筒研削盤、横中ぐり盤、ボール盤（3台）、CNCホブ盤



介護機器と心電計測器



マシニングセンタによる加工



プレスブレーキによる曲げ加工



エンジンの分解・組み立て実習

南棟

北棟

地域創生テクノセンター

Cooperative Research and Development Center for Local Creation

地域創生テクノセンターは、沼津高専が持つ技術力と知的資源を地域社会に還元し、次世代の技術者育成と産業活性化を推進する拠点です。静岡県とその周辺地域を中心とした産業界の皆様と手を携え、下記4つを柱として活動しています。

1. 現場の課題を解決する「科学技術相談」

生産現場での悩みから開発の疑問まで、多角的なアドバイスを提供します。産学官連携コーディネーターと機械、電気・電子、情報、材料、生物分野の専門教員が、皆様のパートナーとして対応します。

2. 産官学連携による「技術交流」

企業、自治体、金融機関とのネットワークを活用し、地域の産業振興に向けた技術交流を推進します。テクノサロン（地域創生交流会）やテクノフォーラム等の開催を通じて、実務に役立つ情報提供や、顔の見える協力関係の構築を支援します。

3. 共同研究・受託研究による「実用化支援」

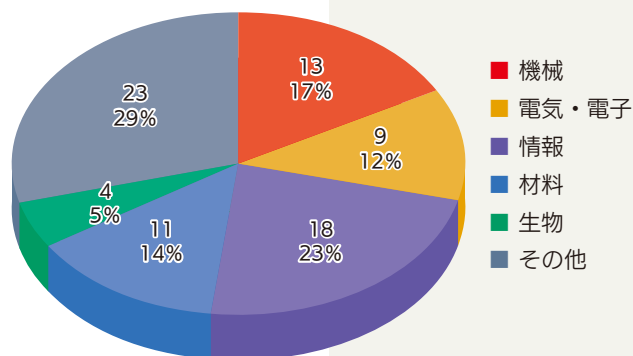
新技術の開発や製品化に向け、本校教員との共同研究や受託研究を支援します。本校が持つ独自の「技術シーズ（研究成果）」を基盤に、「未来創造ラボラトリー」等の学内研究環境の提供も含め、企業の取り組みをバックアップします。

4. 企業と共に学生を育てる「共同教育」

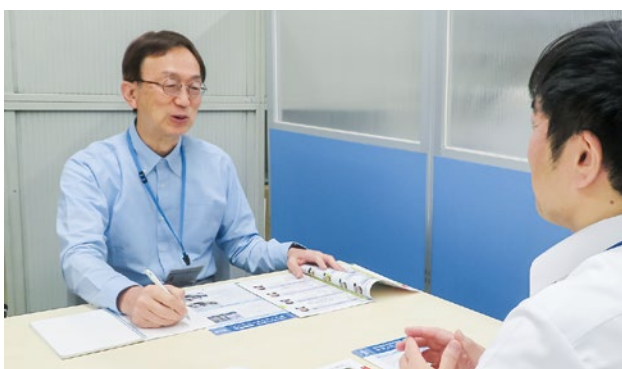
産業界が求める実践的・創造的技術者を育成するため、「未来創造ラボラトリー」や「共用利用可能な研究設備・機器」を活用した学外実習、卒業研究、専攻科学研究を推進します。



地域創生テクノセンター



分野別科学技術相談件数と比率（R3年度～R7年度）



技術相談の様子



テクノサロン（地域創生交流会）の様子



未来創造ラボラトリー



共同研究室にて利用されている分析機器

総合情報センターは本校の情報処理教育と情報システムに関わる様々な業務を行っています。その運営は、本校の数名の教職員によって行われています。

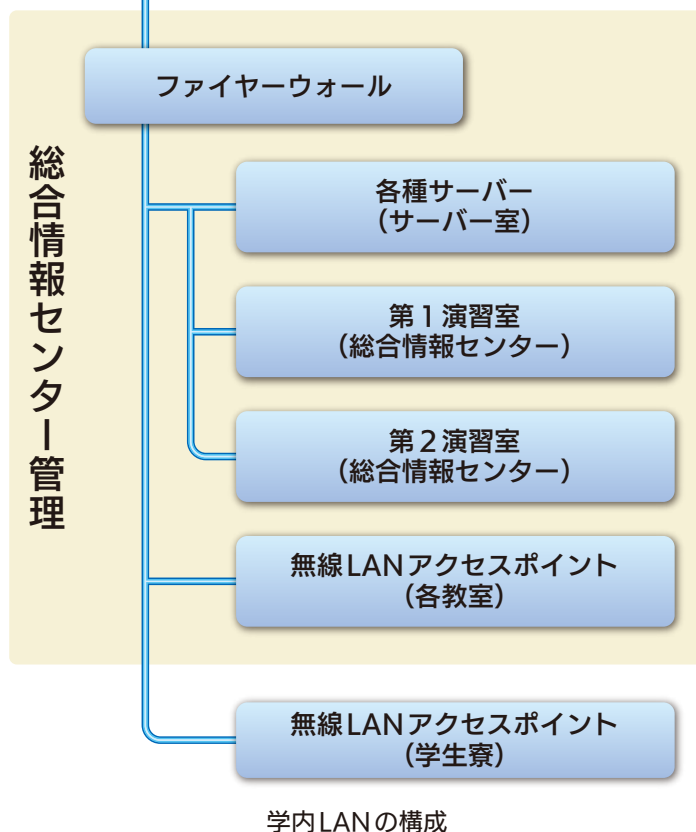
- 教育用計算機システムの設計・管理運用
- 学内情報基盤の設計・管理運用
- 学内情報資源の有効活用に関わる企画・技術支援
- 情報リテラシー教育・情報処理教育

施設内には、2つの情報処理演習室があり、授業や自習に活用されています。PCやネットワーク、各種ソフトウェアなどからなる教育用のコンピュータ環境は定期的に更新されており、快適に使える環境が整っています。スキャナやプリンタも利用できます。

これらの施設・設備は、全学共通の情報リテラシー教育や、各学科のプログラミング演習などの授業で活用されています。また、学内プログラミングコンテストや各種講座も開催しており、実践的に学ぶ機会を提供しています。センターは、レポート作成やe-Learningによる自主学習・研究などにも利用されています。

また、学内では無線LANを利用することができ、ルールに従って各自のPCをネットワークに接続できます。

インターネット



第1演習室における情報処理基礎の講義



第2演習室での自学自習風景



第2演習室でのミーティング風景

図書館について

総合メディアセンターの2階は図書館になっています。図書館には教育及び研究に必要な専門的な情報資料の他、豊かな情操を養うための教養書等が開架書架に並べられており、学術専門雑誌、一般雑誌及び新聞も自由に閲覧できるようになっています。

令和4年度に改修がされ、窓・空調を更新し、断熱性能が向上したことに加えて、勉強に集中できる無音学修スペースを新設し、より快適に過ごすことが可能になりました。

平日は19時30分まで開館しており、土曜も開館（試験期間に合わせて日曜・祝日も開館）しています。

電子化への対応

情報社会に即応して図書館業務システムを導入し、貸出・返却業務の電算化はもとよりWebによる蔵書検索、新着図書情報の提供などが可能となっています。閲覧室にPCブースを設置し、電子情報も閲覧できるようにしています。

●閲覧定員：102座席 ●検索用端末：蔵書検索専用2台

●蔵書状況（令和8年3月31日現在）

蔵書冊数

和書	51,781
洋書	16,252
合計	68,033

所蔵雑誌種類数

和雑誌	239
洋雑誌	329
合計	568

●利用状況（令和7年度）

来館者数	29,414
貸出冊数	4,627
開館日数	238

電子ジャーナル・電子ブック種類数

	電子ジャーナル	電子ブック
和書	0	183
洋書	2,311	0
合計	2,311	183



図書館入口



閲覧室



無音学修スペース



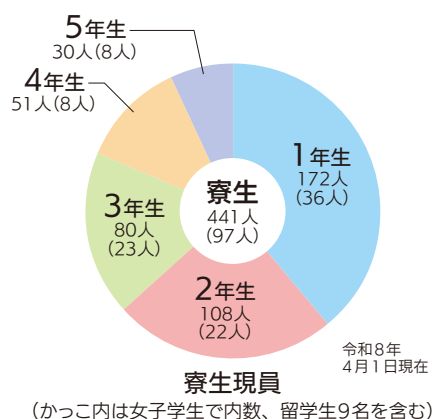
図書館利用の様子

本校の教育方針に則り、修学環境を整え学生の人間形成を助けるために、学生寮を設置しています。現在、学生寮では約440名の学生が寮生活を送っています。1年生は8割が寮生活を体験しています。集団生活のなかでの思いやりや公共心、基礎的なマナー、身の回りのことを自分でする力などを身に付けます。また、上級生は下級生の手助けをするとともに、多くの上級生は指導寮生として後述する寮生会の運営に携わります。いろいろな学生との交流や経験を通じて、人間として成長することを目標としています。

寮は学校の敷地の北東部にあり、翔峰寮、栄峰寮、光峰寮、優峰寮、明峰寮、清峰寮、秀峰寮の7棟のほか、食堂、寮管理棟などがあります。棟内には居室のほか、談話室や補食室なども設けられています。優峰寮と秀峰寮では、外国人留学生も日本人学生とともに生活しています。

学生寮の運営、寮生の指導を担当する教員として校長補佐（寮務主事）をはじめとする約10名の教員で寮務委員会が組織されており、専任の寮監が1名配置され、日々の寮生の指導に当たっています。また、夜間は全教員が輪番で、警備会社の警備員とともに寮の宿直に当たっています。

寮内には、寮生が組織する寮生会があり、寮長・副寮長・棟長（各棟を統括する役員）等の指導寮生を中心に、規律正しく有意義な共同生活が営まれています。寮生会は年間を通じて、夏祭り・クリスマスパーティー・防災訓練・教養講座・マテカ（寮生会による学習会）・棟別杯（スポーツイベント）等の行事を実施しています。とくに5月に開催される漆峰寮（寮祭）は大きな行事となっています。



秀峰寮



登校風景



談話室風景 (明峰寮)



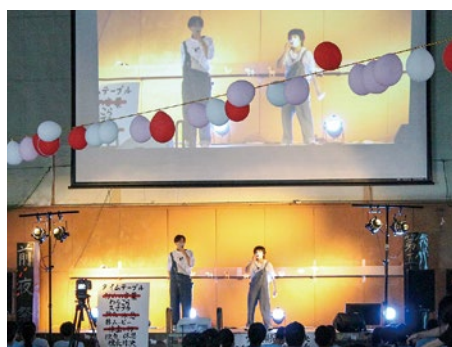
居室風景 (明峰寮)

寮生と教員の連携による寮運営

寮生会本部役員（寮長、副寮長を含む約30名）と寮務担当教員は、隔週木曜日放課後に「木曜会」と呼ばれる合同会議を開催しています。木曜会では寮生会からの報告、教員からの助言、相互の意見交換などが行われています。また、全体会議終了後に棟顧問教員と棟長との話し合いが行われ、そこではより細かい情報交換や助言が行われます。



このような寮生会と寮務担当教員との連携により、日々の寮運営が行われています。



寮祭 (前日祭)



寮祭 (本祭)



食堂風景

学生支援ゾーン・尚友会館（福利施設）

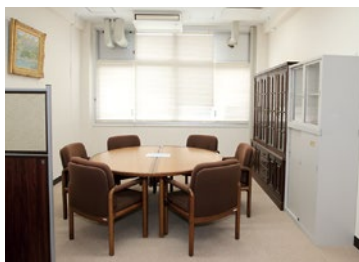
Student Support Zone / Welfare Facility, "Shoyu-kaikan"

学生支援ゾーン

学生支援体制の強化・充実を図るため、学生課の並びに、保健室・カウンセリングルーム・学生生活支援室を統合配置しています。

学生生活支援室

円滑で充実した高専生活を送れるように、学生生活支援室を設置しています。学生生活や合理的配慮に関することなどについて、相談に応じています。



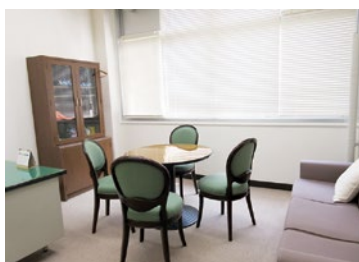
保健室

保健室には看護師が常駐しており、学生が心身ともに安全で安心な学生生活を送れるように、健康診断や健康相談、体調不良者の休養や負傷時の応急処置などを行っています。



カウンセリングルーム

学生の抱える様々な問題に対応するために、時間を設定して、専門のカウンセラー（週2回）、ソーシャルワーカー（週1回）が相談を受け付けています。



キャリア支援

学生の就業意識を高め、就職支援をするために、キャリア形成に関する講演や模擬面接、インターンシップ啓発、女子学生に対するメイクアップ講習などを行っています。



学生課

学生課は、教務、入試・国際交流、学生・寮務の4つの係があり、学生生活に直接関係のある業務を取り扱っています。



【相談BOX】

校内の3か所に設置。「いきなり人と会って相談というのはちょっと…」という学生にも対応しています。

尚友会館

尚友会館は学生の福利厚生を目的とした施設です。1階には学生食堂・売店などがあり、2階には学生会室と学生共用室があります。また、ロビーは、休憩時間の学生の憩いの場となっています。



尚友会館



売店



学生共用室



ロビー



学生食堂

学生データ

Student Information

●定員及び現員

令和8年4月1日現在

■学科	■入学定員	■収容定員	■現員					■合計
			1年	2年	3年	4年	5年	
機械工学科	40	200	45(6)	42(5)	40(3)	43(7)	33(0)	203(21)
電気電子工学科	40	200	44(3)	43(4)	44(5)	38(5)	36(5)	205(22)
電子制御工学科	40	200	41(8)	43(6)	44(10)	41(8)	32(0)	201(32)
制御情報工学科	40	200	44(9)	41(3)	46(9)	37(3)	42(10)	210(34)
物質工学科	40	200	43(20)	43(22)	41(17)	39(17)	38(22)	204(98)
計	200	1000	217(46)	212(40)	215(44)	198(40)	181(37)	1023(207)

() 内は女子で内数

令和8年4月1日現在

■専攻科	■入学定員	■収容定員	■現員		■合計
			1年	2年	
総合システム工学専攻	24	48			
（環境エネルギー工学コース）			7(2)	10(2)	17(4)
（新機能材料工学コース）			1(0)	6(1)	7(1)
（医療福祉機器開発工学コース）			12(0)	11(0)	23(0)
計	24	48	20(2)	27(3)	47(5)

() 内は女子で内数

●出身地別学生数

令和8年4月1日現在

■出身地	■学生数
静岡県	891
神奈川県	93
山梨県	5
愛知県	12
東京都	3
岐阜県	2
埼玉県	3
長野県	1
兵庫県	1
千葉県	2
茨城県	1
マレーシア	5
タイ	2
インドネシア	1
ミャンマー	1
計	1,023

専攻科は除く

●入学志願者状況

令和8年4月1日現在

■学科	令和7年度				令和8年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40(20)	43(19)	42(20)	1.1(1.0)	40(20)	55(30)	42(20)	1.4(1.5)
電気電子工学科	40(20)	41(24)	41(20)	1.0(1.2)	40(20)	58(31)	42(20)	1.5(1.6)
電子制御工学科	40(20)	50(33)	40(20)	1.3(1.7)	40(20)	49(38)	41(20)	1.2(1.9)
制御情報工学科	40(20)	56(41)	41(20)	1.4(2.1)	40(20)	54(46)	43(20)	1.4(2.3)
物質工学科	40(20)	54(42)	42(20)	1.4(2.1)	40(20)	47(35)	43(20)	1.2(1.8)
計	200(100)	244(159)	206(100)	1.2(1.6)	200(100)	263(180)	211(100)	1.3(1.8)

() 内は推薦選抜による内数

令和8年4月1日現在

■専攻科	令和7年度			令和8年度		
	募集人員	志願者	入学者	募集人員	志願者	入学者
総合システム工学専攻						
環境エネルギー工学コース		15	9		25	7
新機能材料工学コース	24	7	6	24	13	1
医療福祉機器開発工学コース		16	12		24	11
計	24	38	27	24	62	19

●外国人留学生

令和8年4月1日現在

■出身国	機械工学科			電気電子工学科			電子制御工学科			制御情報工学科			物質工学科			■合計
	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	
マレーシア				1	1	1							1	1		5
タイ							1		1							2
インドネシア												1				1
ミャンマー							1									1
計	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	9

●静岡県内都市別学生数

令和8年4月1日現在

■東部地区		■中部地区		■西部地区	
■出身地	■学生数	■出身地	■学生数	■出身地	■学生数
富士市	110	静岡市	90	浜松市	81
沼津市	106	藤枝市	28	掛川市	20
駿東郡	81	焼津市	21	磐田市	27
三島市	65	島田市	14	袋井市	9
御殿場市	50	牧之原市	9	菊川市	8
富士宮市	58	榛原郡	3	湖西市	8
裾野市	37			御前崎市	3
伊豆の国市	20				
伊東市	18				
伊豆市	4				
熱海市	5				
下田市	3				
賀茂郡	5				
函南町	8				
計	570	計	165	計	156

専攻科は除く

進路 Courses after Graduation

令和7年度卒業生の進路状況

令和8年4月1日現在

	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	計
就職	17	17	20	12	21	87
進学	10	18	17	25	14	84
その他	1	3	0	0	1	5
計	28	38	37	37	36	176

●機械工学科

就職先 ㈱アイエイアイ、池上通信機㈱、㈱小松製作所、㈱セガ・ロジスティクスサービス、中部電力㈱、トヨタ自動車東日本㈱、日新化工㈱、浜松ホトニクス㈱、パナソニック㈱、日立建機㈱、ファナック㈱、㈱BREXA Technology、三菱電機㈱、㈱明電エンジニアリング、㈱明電舎、メタウォーター㈱、矢崎総業㈱

進学先 千葉大学工学部、東京農工大学工学部、福井大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、九州工業大学情報工学部、沼津工業高等専門学校専攻科

●電気電子工学科

就職先 アマゾンジャパン合同会社、臼井国際産業㈱、関西電力㈱、㈱河合楽器製作所、㈱JERA、第一三共㈱、トヨタ自動車東日本㈱、日本空港テクノ㈱、ネクストウェア㈱、パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション㈱、浜松ホトニクス㈱、日立ハイテック㈱、三菱電機ビルソリューションズ㈱、明電システムソリューション㈱、㈱明電舎、矢崎総業㈱

進学先 東京大学工学部、九州大学工学部、弘前大学理工学部、筑波大学理工学群、東京科学大学工学院、東京農工大学工学部、電気通信大学Ⅱ類、長岡技術科学大学工学部、富山大学工学部、山梨大学工学部、信州大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、豊田工業大学工学部、立命館大学理工学部、沼津工業高等専門学校専攻科

●電子制御工学科

就職先 ㈱アイエイアイ、アステラス製薬㈱、㈱アドバンテスト、出光興産㈱、㈱エスユーエス、㈱Mテック、島津メディカルシステムズ㈱、㈱J-POWERハイテック、㈱ゼンリン東海、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱、東芝ITサービス㈱、東京電力ホールディングス㈱、東日本旅客鉄道㈱、㈱日水コン、日本たばこ産業㈱、ファナック㈱、㈱FIXER、本田技研工業㈱、㈱明電エンジニアリング

進学先 北見工業大学工学部、筑波大学理工学群、横浜国立大学理工学部、新潟大学工学部、長岡技術科学大学工学部、信州大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、熊本大学工学部、沼津工業高等専門学校専攻科

●制御情報工学科

就職先 アイ・システム㈱、アマノ㈱、キヤノン㈱、キヤノンマーケティングジャパン㈱、ギガフォトン㈱、㈱ザイマックスグループ、㈱テクノサイト、西日本旅客鉄道㈱、パナソニックITS㈱、浜松ホトニクス㈱、横河レンタ・リース㈱

進学先 北海道大学工学部、東北大学工学部、東京大学工学部、名古屋大学工学部、北見工業大学工学部、筑波大学理工学群、筑波大学情報学群、長岡技術科学大学工学部、静岡大学情報学部、豊橋技術科学大学工学部、神戸大学工学部、東京都市大学理工学部、沼津工業高等専門学校専攻科

●物質工学科

就職先 旭化成㈱、アステラス製薬㈱、天野エンザイム㈱、臼井国際産業㈱、エヌ・イー ケムキャット㈱、㈱MBM、興和㈱、シミックCMO㈱、㈱タウンズ、第一三共㈱、大日精化工業㈱、テルモ㈱、東洋技研㈱、東レ㈱、日本分光㈱、一般財団法人日本品質保証機構、丸善石油化学㈱、森永乳業㈱東京多摩工場、㈱ヤクルト本社富士裾野工場

進学先 東北大学工学部、東北大学理学部、東京科学大学生命理工学院、東京科学大学物質理工学院、東京農工大学工学部、長岡技術科学大学工学部、岐阜大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、広島大学生物生産学部、東京理科大学理学部、新渡戸文化短期大学臨床検査学科、沼津工業高等専門学校専攻科

令和7年度専攻科修了生の進路状況

令和8年4月1日現在

	環境エネルギー工学コース	新機能材料工学コース	医療福祉機器開発工学コース	計
就職	5	2	7	14
進学	3	0	7	10
その他	0	0	1	1
計	8	2	15	25

●環境エネルギー工学コース

就職先 小川香料㈱、㈱CurioBase、ニデック㈱、パナソニック㈱、三菱重工業㈱

進学先 北海道大学理学院宇宙物理学専攻、長岡技術科学大学大学院工学研究科、豊橋技術科学大学大学院情報・知能工学専攻

●新機能材料工学コース

就職先 テルモ㈱、日電電工㈱

●医療福祉機器開発工学コース

就職先 ㈱MBM、㈱NSD、㈱NTTデータ先端技術、㈱P-LUCK、㈱トウネツ、㈱日立ハイテック、㈱安川電機

進学先 群馬大学理工学府電子情報通信プログラム、東京科学大学物質理工学院、東京科学大学生命理工学院、長岡技術科学大学大学院機械工学分野、奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス領域

事業費概要・建物配置図

Income and Expenditure / Campus Map

令和7年度 収入・支出決算額

収入 (単位：千円)		支出 (単位：千円)	
区分	決算額	区分	決算額
運営費交付金	41,526	業務費	298,827
施設整備費	0	教育研究経費	252,687
自己収入	252,909	一般管理費	46,140
①授業料及び入学検定料	242,441	施設整備費	0
②雑収入	10,468	産学連携等研究経費	170,811
産学連携等研究収入	106,504	寄附金事業費	7,126
寄附金収入	8,626	その他補助金事業費	25,484
その他補助金	25,484		
合 計	435,049	合 計	502,248

建物配置図

No. 建物名称	m ²	No. 建物名称	m ²
1 管理棟（共通棟、E科棟含む）	5,772	15 第1体育館	1,027
2 共通棟		16 第2体育館	880
3 専攻科棟	1,183	17 武道館	331
4 講義棟	1,704	18 尚友会館（学生食堂 等）	720
5 機械工学科・制御情報工学科棟	2,251	19 守衛所	26
6 電気電子工学科棟		20 学生寮管理棟・浴室	324
7 電子制御工学科棟	2,180	21 学生寮（優峰寮）	1,512
8 制御情報工学科実験棟	780	22 学生寮（秀峰寮）	1,502
9 物質工学科棟	2,337	23 学生寮（清峰寮）	1,380
10 物質工学科生物工学実験棟	514	24 学生寮（明峰寮）	1,315
11 教育研究支援センター 南棟	759	25 学生寮（光峰寮）	1,276
12 教育研究支援センター 北棟	603	26 学生寮（栄峰寮）	1,754
13 総合メディアセンター （図書館、総合情報センター）	2,114	27 学生寮（翔峰寮）	1,752
14 地域創生テクノセンター	415	28 学生寮食堂（合宿施設含む）	862
		29 合宿施設	



沿革・校歌

History / School Song

● 沿革

- 昭和37.3.29 沼津工業高等専門学校（機械工学科（2学級）及び電気工学科（1学級））設置
昭和41.4.5 工業化学科設置
昭和61.4.1 電子制御工学科設置
平成元.4.1 工業化学科が物質工学科に改組
平成4.4.1 機械工学科（2学級）が機械工学科（1学級）と制御情報工学科（1学級）に改組
平成8.4.1 専攻科（機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻）設置
平成11.4.1 電気工学科が電気電子工学科に改組
平成16.4.1 独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校へ移行
平成26.4.1 専攻科（3専攻）を総合システム工学専攻（3コース）に改編

● 校歌 作詞 市川 良輔 作曲 渡辺 浦人

東海に聳えて名あり
ゆるぎなき富士の高嶺よ
仰ぎ見る沼津が丘に
わが心直くゆたけし
日本の工業が呼ぶ
若き日の五つ年今ぞ

新たなる使命に満ちて
科学するみち一すじよ
学び成す礎とわに
わが腕さやけくつよし
日本の工業が待つ
若き日の五つ年今ぞ

天地のただふところに
伸びいそぐ「小林」が樹よ
春秋のいそしみふかく
わが希望さだかに遂げむ
日本の工業興す
若き日の五つ年今ぞ



JASRAC 出 2600109-601

● 夢の彼方で 沼津高専第二校歌 作詞・作曲・編曲・演奏 鈴木 康博

朝日に映える 富士の山は
夢を大きく 抱けという
青春の日々を 実らせよう
仲間とともに
生き生きと のびのびと
高専の誇り 胸に抱き
未来をつかむ 初めの一步
ここに刻もう

夕映えの 富士の輝きは
若い背中を 押してくれる
先達の 導きを胸に
明日を拓こう
風の中 立ち向かう
高専のエネルギー 燃やせ
あきらめないで 一日一歩
夢への道を
楽しいときも
苦しいときも
それはきっと

僕らの宝物になる
大いなる 駿河の海から
時代見据える 技術持とう
君に相応しい 君だけの
道はあるから
旅立とう 羽ばたこう
高専に学んだ 翼で
いつか語らん 沼津の思い出
夢の彼方で

JASRAC 出 2600109-601

令和9年度より先端理工学科1学科・4学類へと学科改組します

Reorganizing into the School of Advanced Science and Engineering (4 majors) in 2027.

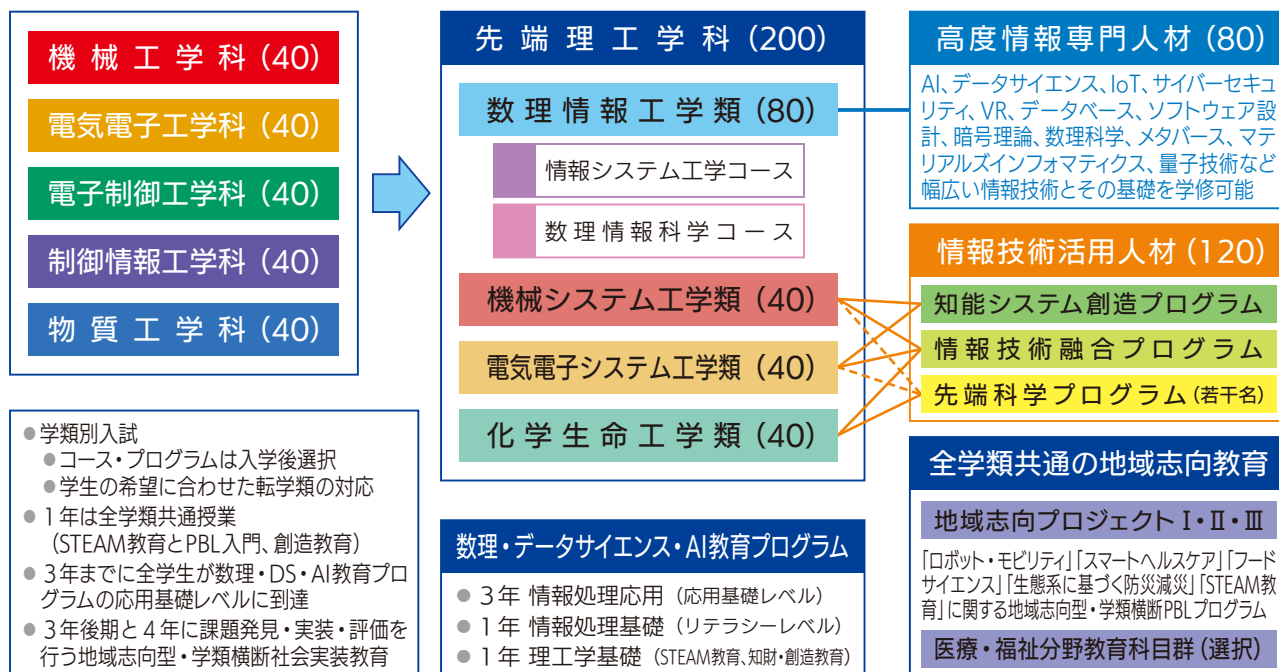
●学科改組の背景と目的

沼津高専は、静岡県東部地域で唯一の理工系高等教育機関として、60年以上にわたり地域社会や産業界に多くの実践的技術者を輩出してきました。近年では、AI、データサイエンス、IoT、再生可能エネルギー、医療・バイオテクノロジーなど、これまでにないスピードで社会・産業が変化し、求められる人材像も高度化・多様化しています。こうした社会的要請に応えるため、従来の「特定分野ごとの縦割り型」学科構成から脱却し、専門性の深化と分野横断的な統合力をあわせ持つ教育体制を構築します。

【R8年度まで】5学科



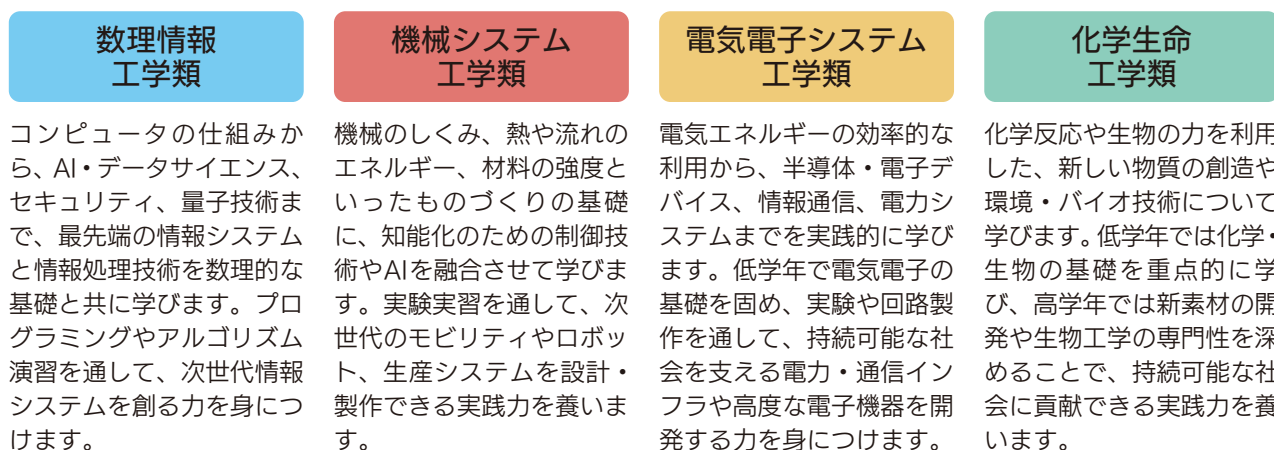
【R9年度から】1学科4学類



●先端理工学科：横断する学びが、専門を深くする。

豊かな人間性を備え、科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者を育成します。入学後は、情報・機械・電気電子・化学生物の4分野に対応した専門学類に所属し、1年次では理工学共通の基礎を学びます。2年次以降は、一つの分野の専門性を深め、高学年では先端分野の学習や分野を越えた「知の融合」を体験します。さらに、複雑な社会課題を解決するため、全学生がAI・データサイエンスなどの高度情報技術と、柔軟な発想力、問題解決力、行動力を身につけます。

●学類構成



National Institute of Technology (KOSEN), Numazu College



入学式



DCON



オリエンテーリング説明

沼津高専公式SNSアカウント



Xはこちら



Instagramはこちら



Access Map

交通案内

〔沼津高専〕

- JR三島駅北口よりタクシーにて約10分
- JR沼津駅南口より富士急シティバス マーレ沼津工場前下車、徒歩約10分
- JR下土狩駅より徒歩約20分
- 東名高速道路沼津インターチェンジより車で約5分
- 新東名高速道路長泉沼津インターチェンジより車で約5分

〔サテライトオフィス(N-com)〕

- JR沼津駅北口より徒歩約5分
- 沼津高専より車で約10分

2026 沼津高専 概要

編集発行

●2026年7月 ●独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL 055 (921) 2700 FAX 055 (926) 5700
<https://www.numazu-ct.ac.jp>

沼津高専公式ウェブサイトはこちら

